

経営比較分析表（令和元年度決算）

香川県 丸亀市

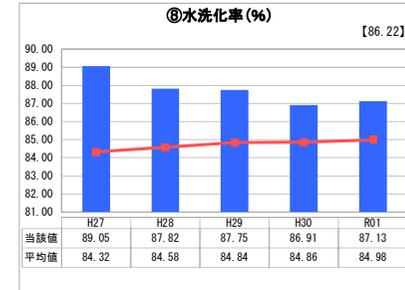
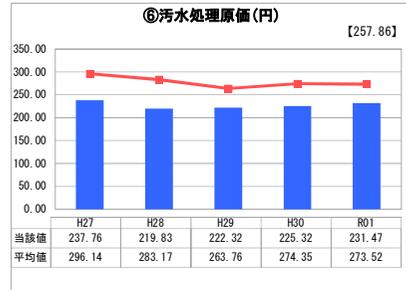
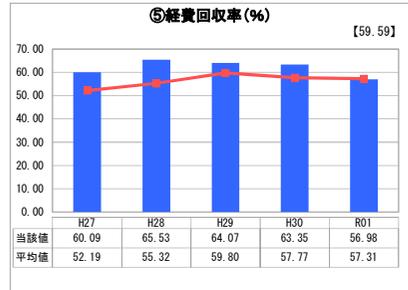
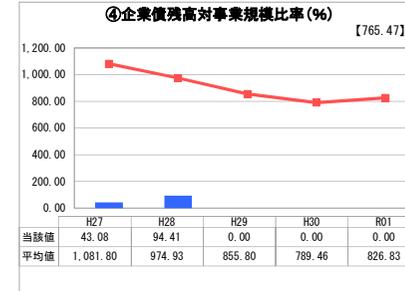
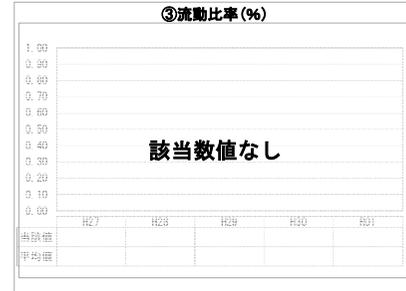
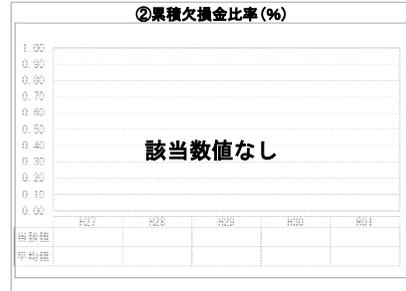
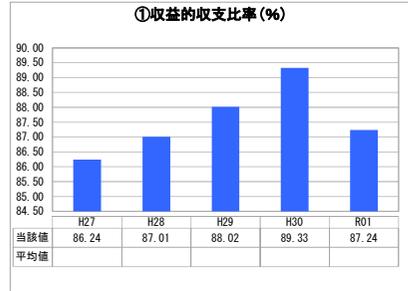
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金 (円)
-	該当数値なし	2.54	100.09	2,409

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
112,899	111.83	1,009.56
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
2,867	1.23	2,330.89

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益の収支比率は、地方債償還金の増と使用料収入の減により、昨年度より低下し、87.24%となっている。

④企業債残高対事業規模比率は、企業債の償還に充てる使用料収入が不足しているため、その償還費用を繰入金と資本費平準化債で賄っており、平成29年度から比率が0%となっている。

⑤経費回収率は、使用料収入の減により昨年度よりさらに低下し、56.98%となっている。

⑥汚水処理原価は、汚水処理費用の減少率より有収水量の減少率が大きかったため、昨年度より増加しており、汚水処理に係るコストが高くなっている。

⑦施設利用率は、晴天時の一日平均処理水量の減少により昨年度よりやや低下しているが、類似団体平均値よりは高くなっている。

⑧水洗化率は、3カ年（令和元年度～令和3年度）の水洗化促進活動計画に基づき、各戸への訪問等の事業を実施したことにより、昨年度より上昇した。今後も継続的に下水道への接続をお願いしていく。

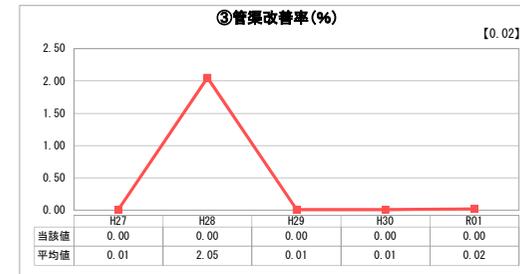
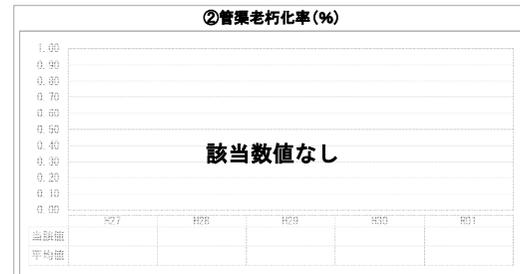
令和元年度の決算としては、使用料収入、汚水処理費用ともに減少している。使用料収入については、人口減少や節水等による有収水量の減少、汚水処理費用については、支払利息等の減少が主な要因であるが、企業会計移行前の打ち切り決算による収支の減少も影響している。

2. 老朽化の状況について

③4箇所の農業集落排水処理施設は供用開始してから約10～20年と比較的新しいことから、管渠更生は実施しておらず、管渠改善率は0%となっている。

今後、設備の老朽化に伴い長寿命化工事の実施が見込まれることから、平成28年度に農業集落排水処理施設の機能診断を実施し、診断結果を受けて、平成29年度に施設の最適整備構想を策定した。

2. 老朽化の状況



全体総括

農業集落排水施設の整備は完了しており、建設投資は主に維持補修費である。今後も使用料収入が減少することが予想されるが、経費回収率に現れているとおり、経営状況は、使用料収入で汚水処理費用を賄うことが困難な状況である。

一方、平成29年度に策定した最適整備構想の結果、4地区それぞれ持つ処理場を廃止し、公共下水道へ接続することが今後の事業運営として最も有効となる結論に至った。今後は、農業集落排水処理施設の公共下水道への編入に向けた手続きを進め、早期の工事着手に向け取り組む。

また、令和2年4月から地方公営企業法の一部を適用し、企業会計に移行した。経営の安定化を図り、持続的なサービスを提供するため、使用料の改定に向けた作業を進めるとともに、平成28年度に策定した丸亀市下水道事業経営戦略の見直しを行う予定である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益の収支比率の類似団体平均等を表示していません。